

# 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和3年10月6日(水)第5校時 1年

## 1 題材名 「住まいの役割と安全な住まい方」

## 2 教材観

### (1) 学習指導要領上の位置付け

本題材は、中学校学習指導要領技術・家庭科家庭分野の内容「B 衣食住の生活」を受けて設定したものである。

#### B (6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。

(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。

### (2) 題材の価値

本題材は、住居の機能と安全な住まい方について、課題をもって、住居の基本的な機能について理解し、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

近年の住まいは一戸建て住宅に限らず集合住宅が増加してきている。住まい方においても、日本の伝統的な住様式である和式よりも洋式が増え、少子高齢社会の進展や核家族の増加により、多様な住まい方が見られる。また、毎年のように各地で自然災害が発生しており、その被害を防ぐ対策を行うことが重要視されている。

そこで、住まいは自分が生きていく上で必要不可欠であることや安全が保障された上で成り立つ住まいの快適さに気付かせ、本題材を学習する意義をもたせたい。安全で快適なよりよい住まい方を工夫することで、日常の中で当たり前のように整えられた住空間を、これからは生徒が自立して自分自身で整えていくことに気付かせ、実践につなげる意欲をもたせることができる。

また、安全で快適な暮らしが自然災害によって奪われてしまうことも想定させ、被害を最小限に抑えるための工夫を考えさせ、自助・共助の姿勢を培うことで地域との関わり大切さにも気付かせたい。さらに、生徒が学んだことを家庭で話題にすることで、家族との協働によって各家庭の災害対策の実効性を高める効果も期待できる。

### (3) 今後の学習への活用

自分自身の住まいの課題を振り返らせた上で、自分が住みたい安全で快適な住まいを考えさせることにより、自分事としてこれからの住生活をよりよくしようとする意欲をもたせることができる。実生活を振り返らせて自分自身の課題を見出し、その課題を解決するために主体的・協働的に学習することは、この後のどの題材においても生徒が学ぶ実感をもって学習する上で活用していくことができる。

### 3 生徒の実態及び指導方針（男子16名 女子13名 計29名）

#### (1) 既習の学習内容や活動

住生活について、これまでに小学校で以下の内容を学習してきた。

##### B(6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。

(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。

小学校の家庭科では、暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点を置いた快適な室内環境の整え方について学習し、そのことを踏まえて、中学校では、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方について学習する。

#### (2) 本題材に関わる生徒の実態

##### 【知識・技能】

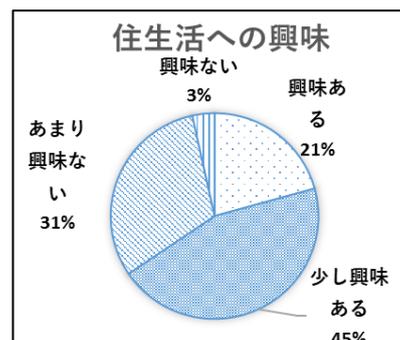
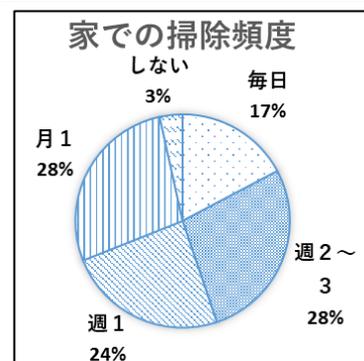
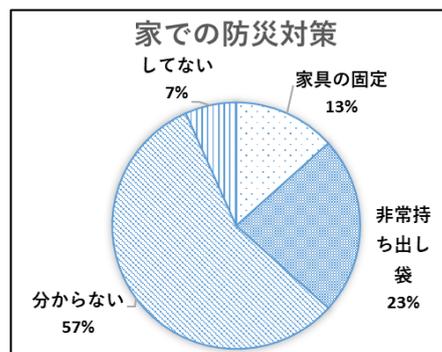
事前アンケートにおいて、「家でどんな防災対策をしているか。」という質問に対し、「分からない。」もしくは「していない。」と回答した生徒が64%で半数以上を占めた。今後起こり得る地震の被害や危険性についてはよく理解しており、備えの大切さは感じているようであるが、具体的にどのような防災対策を行えば良いのかについては知らなかったり、知っていても親任せにしていたりするなど、実践にまでは至っていない。既習の衣生活の学習においても、衣生活に関する知識はあるが、それが生活には結びついていない様子が見られた。

##### 【思考・判断・表現】

家での掃除頻度は比較的多く、学校生活においても真剣に掃除に取り組む生徒が多い。一方で、掃除をする理由については「汚くなるから」や「親に言われるから」という回答がほとんどで、掃除をする必要性を感じ、自ら考えて行動しているわけではないことが分かる。これは防災対策にも同様のことが言え、その根拠については考えているわけではない。

##### 【主体的に取り組む態度】

住生活の学習に対して「興味がある」「少し興味がある」と回答した生徒は66%であり、住まいについて関心のある生徒が半数以上であった。休校期間の影響で、家庭で過ごす時間が増えたことから、住まいで過ごす時間を快適にしたいという気持ちをもっている。既習の『衣生活の自立』においても、自分自身の生活を振り返り、課題を解決しようと真剣に取り組む生徒が多い。



### (3) 指導方針

- ・「つかむ」「まとめる」過程では、自分自身の住まいの問題を振り返らせて考えさせたり課題を見付けさせたりすることで、自分事として捉えさせ、学習したことが生徒の家庭での生活に結びつけられるようにする。
- ・「追究する」過程では、生徒が関心をもって学習に取り組み、気付きや多様な考え方が出てくるように、実際の住まいが想定できるような図や写真、動画などの資料を多く活用したり、体験活動を取り入れたりする。
- ・導入では「何を、どのように学ぶのか」が明確になるような課題をもたせ、生徒と一緒にめあてを設定し、生徒が学習意欲をもって主体的に学習できるようにする。
- ・終末では本時の学習内容をもとにめあてに沿った振り返りを行い、「何を学んだのか」「どのように学んだのか」を生徒自身が自覚できるようにする。
- ・自分の考えをもたせた上でグループ活動や全体共有の場を設定することで、他者の多様な考えに触れたり自分の考えと比較したりすることができ、自分の考えを広げたり深めたりする対話的な学びにつながるようにする。
- ・全体で考えを伝え合う場面では、ただ考えを発表させるのではなく、問い返しをすることで根拠を明確にしていき、考えが深まるようにする。
- ・全体共有の場面では、まとめにつながる考えを意図的に取り上げ、生徒自身が本時の中でのキーワードに気付けるようにする。
- ・考えをスムーズに共有するためにタブレットを用いて意見交流させたり、映像や資料を提示したりするなど、学習活動に適したタブレットの活用を工夫する。
- ・様々な家庭環境があるため、想定家族を設定するなど、プライバシーには十分配慮する。

## 4 題材の目標

### 【知識及び技能】

住居の基本的な役割や家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。

### 【思考力、判断力、表現力等】

家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

### 【学びに向かう力、人間性等】

家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとする。

## 5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・住居の基本的な役割や家族の生活と住空間との関わりについて理解している。</li><li>・家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返</li></ul>

	するなどして課題を解決する力を身に付けている。	て改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
--	-------------------------	--

6 指導計画(全9時間予定)

○:記録に残す評価   ・:指導に生かす評価

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点
つかむ	1	<p>1. 題材の課題を設定する。</p> <p>○自分や家族の住生活について問題を見だし、課題を設定することができる。</p> <p>・アンケートや資料から住生活の問題を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【題材の課題】</b> 安全で快適な住生活を送るためにはどうしたらよいだろうか。</p> </div>	<p>・事前アンケートや住生活の問題を想起させる資料を提示し、困り感に気付かせる。</p>	<p>○思・判・表① 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見だして課題を設定している。 【カード】</p>
追究する	2	<p>2. 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。</p> <p>○住居の機能や家族の生活と住空間の関わりを理解する。</p> <p>・住まいの役割を知り、生活行為と住空間の関わりを考える。</p>	<p>・住まいがなかったらどうなるかを考えさせ、住まいの大切さに気付かせる。</p>	<p>○知・技① 住居の基本的な役割や家族の生活と住空間との関わりについて理解している。【カード】</p>
	3	<p>○和式の住まい方や日本各地の住まいの特徴を理解する。</p> <p>・和式の住まい方や日本各地の住まいの特徴と住空間の関わりを考える。</p>	<p>・和式の住まいや日本各地の地域の特徴について写真を提示し、考えやすくする。</p>	<p>○知・技① 住居の基本的な役割や家族の生活と住空間との関わりについて理解している。【カード】</p>
	4	<p>○健康で快適な室内環境を理解し、住まいの整え方の工夫をすることができる。</p> <p>・室内環境の課題を見つけ、タブレットを活用して解決策を調べる。</p>	<p>・室内を不衛生にした健康被害を紹介し、室内環境を整える必要性を実感させる。</p>	<p>○思・判・表② 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。【カード、行動観察】</p>
	5	<p>○家族の身体的特徴をもとに、家庭内事故の危険性を理解する。</p> <p>・幼児・高齢者体験から、家庭内での危険を予測する。</p>	<p>・幼児や高齢者の視野や身体的特徴を確認する。家庭内事故の現状を資料から確認し関心をもたせる。</p>	<p>○知・技② 家族の安全を考えた住生活の整え方について理解している。【行動観察】</p>
	6 本時	<p>○家庭内事故から対策を考え、自分や家族が安全に住むための工夫をすることができる。</p>	<p>・家族や自分自身の家庭内事故の経験を振り返らせ、学ぶ必要性を実感させる。</p>	<p>○思・判・表② 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。【カード、行動観察】</p>

	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の間取りのイラストから危険箇所を探し、対策方法を考える。</li> <li>○自然災害の危険性を理解し、住まいの対策の工夫を考えることができる。</li> <li>・住まいの災害対策について知り、自分の住まいで想定される被害とその備えを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーについてもふれる。</li> <li>・自然災害を想定した住まいの様子映像を見せ、学ぶ必要性を実感させる。</li> <li>・地域の助け合いの重要性に気付かせる。</li> </ul>	<p>○態① 住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。【行動観察】</p> <p>○思・判・表② 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。【カード、行動観察】</p> <p>○態① 住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。【行動観察】</p>
まとめる	8	<p>3. 題材の課題の解決に向けた実践計画を作成する。</p> <p>○持続可能な住生活を目指した住まい方の工夫を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分や家族が安全で快適に住もうための工夫」として、今からできることを考える。</li> </ul> <p>4. 題材の課題の解決について、まとめをしたり、振り返ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習した工夫を確認し、考えやすくする。</li> <li>・持続可能な社会に向けて、住まい方が深く関係していることを確認する。</li> </ul>	<p>○思・判・表③ 家族の安全を考えた住空間の整え方について、実践を評価したり改善したりしている。【カード、行動観察】</p> <p>○態② よりよい住生活を目指し、住居の機能と安全な住まい方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。【行動観察】</p>
	9	<p>○持続可能な住生活にするための工夫ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で考えた住まいを共有し、課題と解決方法について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の住生活を工夫するために自分で取り組めるものかどうかが持続可能なものかをグループで検討させる。</li> </ul>	<p>○思・判・表④ 家族の安全を考えた住空間の整え方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを筋道立てて説明したり発表したりしている。【カード、行動観察】</p> <p>○態③ よりよい住生活を目指し、住居の機能と安全な住まい方について工夫し創造し、実践しようとしている。【行動観察】</p>

## 7 本時

- (1) **ねらい** 家庭内事故を防ぐための対策を話し合う活動を通して、自分や家族が安全に住むための工夫を考えることができる。
- (2) **準備** 教科書、ワークシート、シール、テレビ、ヒントカード
- (3) **展開（本時：9時間中の6時間目）**

<b>学習活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される生徒の反応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点及び支援</li> </ul> <p>◎努力を要する生徒への支援      ◇評価</p>
<p>2 本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も家でドアに指を挟んだり骨折したりしたことがあったな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で学習した幼児・高齢者の身体的特徴や事故事例のグラフから、家庭内事故で亡くなるリスクもあることを確認する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の家庭内事故の経験を紹介したり家族や自分自身の経験を振り返らせたりする。</li> <li>・事故を防ぐにはどうすれば良かったかを問うことで、対策の必要性に気付かせる。</li> </ul>
<b>めあて：家庭内事故の対策を話し合い、自分や家族が安全に住むための工夫を考えよう。</b>	
<p>2 家庭内事故が起こりそうな危険箇所とその対策方法を考える。【個人】（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は階段や小さな段差でもつまずくから手すりや滑り止めがあるといいな。</li> <li>・幼児は好奇心が旺盛だからけがにつながるものは手の届かない所に置くといいな。</li> <li>・火の近くは燃えるからものを近くに置かないようにしよう。</li> </ul> <p>3 個人で考えた家庭内事故の対策を話し合い、発表用ワークシートにまとめる。【グループ】（15分）</p> <p>4 全体で共有し、自分や家族が安全に住むための工夫をまとめる。【全体】（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものを踏んだり誤飲したりする危険があるので整理・整頓をする。</li> <li>・水や火を使う場所では死亡事故や大けがが起こりやすいので、特に幼児が近寄らない工夫をする。</li> <li>・転倒防止にはバリアフリーな住まいのづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内のイラストの危険箇所をシールで可視化する。</li> <li>・始めに全体で1つの事故について確認し、ワークシートの書き方を例示してから個人で取り組ませる。</li> <li>・想定家族（祖父、祖母、父、母、自分、妹）を設定することで、家族の様々な立場から対策を考えることができるようにする。</li> </ul> <p>◎家庭内事故が起きている場面のイラストをテレビに映したり配布したりすることで、どのような対策をすれば良いか、自分で考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーな住まいについても触れ、それが家庭内事故の対策につながることを確認する。</li> <li>・イラストの場所につき1つ以上考えさせることで、対策が偏らないようにする。</li> </ul> <p>◇家庭内事故をもとにどう対策したら良いか、住まいの工夫が書けている。</p> <p><b>【思・判・表イ】ワークシートへの記入・発表</b></p> <p>◎自分の力で全ての対策に気付けなくても、グループの生徒の話聞くことで多様な対策があることに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに担当場所を割り当てることで、事故の予防や対策についての考えを交流させる。</li> <li>・グループごとの発表に対して、他の危険箇所や対策方法はないか全体に問いかけ、考えを広げる。</li> <li>・発表に対して、「どうして事故が起きるのか」「なぜその対策をすると良いのか」などの問い返しをすることで、対策が必要である根拠を明確にする。</li> <li>・家庭内事故の対策が高齢者・幼児・誰にでも当てはまるものか確認する。</li> <li>・グループの発表の中から、自分や家族が安全に住</li> </ul>

<p>(手すりやスロープ、滑り止めの設置) やコー ド類の収納をする。</p>	<p>むための工夫に気づかせ、焦点化していくことで、 まとめの言葉につなげられるようにする。</p>
<p><b>まとめ</b> 自分や家族が安全に住むためには、整理・整頓・収納・設置などで住まいを整えておくことが大切。</p>	
<p>5 本時の振り返りをする。(5分)</p>	<p>・本時で学んだことをもとに、分かったことやこれ からの生活で生かしたいことを振り返らせる。 ◇本時の学習をもとに、自分の家庭で実践できそう な家庭内事故の予防や対策が書けている。 <b>【態ア】</b> ワークシートへの記入・発表</p>

## 8 板書計画

めあて：家庭内事故の対策を話し合い、自分や家族が安全に住むための工夫を考えよう。

<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>家庭内事故死の 原因の表</p> </div> <p><b>家庭内事故</b> 亡くなることも…</p> <p>ヘアアイロンで火傷</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電源を切る</li> <li>・置いたままにしない</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p><b>対策で防げる！</b></p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>家庭内イラスト の拡大図</p> </div> <p>(例) 事故：階段で転ぶ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>対策：手すりを付ける</p>	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">1 班</td> <td style="width: 33%;">2 班</td> <td style="width: 33%;">3 班</td> </tr> <tr> <td>4 班</td> <td>5 班</td> <td>6 班</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水や火や電気など死亡のリスクがあるものには<b>近づかせない</b></li> <li>幼・高</li> <li>・角にはクッション材をつける <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幼</span></li> <li>・滑り止めや手すりですべ防止 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高</span></li> </ul>	1 班	2 班	3 班	4 班	5 班	6 班
1 班	2 班	3 班						
4 班	5 班	6 班						

まとめ：自分や家族が安全に住むためには…  
**整理・整頓・収納・設置などで住まいを整えておくことが大切**